

第3期 つくば市 戦略プラン 概要版

令和7年(2025年)3月

〔対象期間〕

令和7年度(2025年度)から

令和11年度(2029年度)まで

第3期つくば市戦略プラン 概要版

令和7年(2025年)3月

<編集・発行>

つくば市 政策イノベーション部 企画経営課

〒305-8555

茨城県つくば市研究学園一丁目1番地1

029-883-1111(代表)

1 つくば市ってどんなまち！？

『あゆみ』

1963年 9月	研究学園都市建設の4候補地（富士山麓・赤城・那須・筑波）から選定、閣議了解
1985年 3月	研究学園都市の概成を記念し、「人間・居住・環境と科学技術」をテーマに、『EXPO'85 国際科学技術博覧会』が開催
1987年11月30日	大穂町・豊里町・谷田部町・桜村が合併し、『つくば市』が誕生
1988年 1月31日	筑波町を編入
2002年11月 1日	茎崎町を編入
2007年 4月 1日	特例市に移行
2010年 5月	分庁舎を統合し、現庁舎開庁
2013年 9月	筑波研究学園都市建設の閣議了解 50周年

『都心への良好なアクセス』

つくば市は茨城県の南西部にあり、首都東京から北東に約 50 キロメートルの距離に位置しています。市内にはつくばエクスプレス（TX）のほか、常磐自動車道や首都圏中央連絡自動車道（圏央道）が通り、都心には電車で約 45 分、車で約 60 分でアクセスできます。

『日本有数の科学のまち』

筑波研究学園都市を擁するつくば市には 150 を超える研究機関が集積し、官民合わせて 1 万 4 千人以上の研究者を有しています。

『豊かな自然』

市北部に関東の名峰筑波山を擁し、東には我が国第 2 位の面積を有する霞ヶ浦を控え、これらをあわせて水郷筑波国定公園に指定されています。市南部には牛久沼を擁しています。また、市域の大部分は平坦な地形であり、小貝川や桜川などの河川や平地林、畑地や水田が一体となった田園風景が広がっています。

『人口増加率日本一』

つくば市の人口は、市制施行以来、増加を続けており、2024 年 11 月には 26 万人を超えました。とりわけ、つくばエクスプレス沿線における子育て世代の流入などにより、順調に増加を続けており、2023 年には人口増加率が市区部（町村部は除く）において全国 1 位となりました。

『国際都市』

つくば市には、研究者や留学生をはじめ、144 の国・地域から 13,910 人（2025 年 1 月 1 日現在）の外国人が居住しています。全国的に見ても、外国人市民の割合が高く、多様な国籍・地域の出身者で構成されたまちであると言えます。



2 未来構想・戦略プランってなんだろう？

総合計画とは、計画的な行政運営を図ることを目的として、かつては地方自治法により策定が義務付けられていましたが、現在は、各市町村に策定の判断が委ねられている計画です。つくば市では、予算や職員等の経営資源が限られる中、市の魅力を高め、持続可能なまちづくりを進めていくにあたり総合計画の後継として、「未来構想」、「戦略プラン」を策定しており、それぞれ次のような役割を持っています。

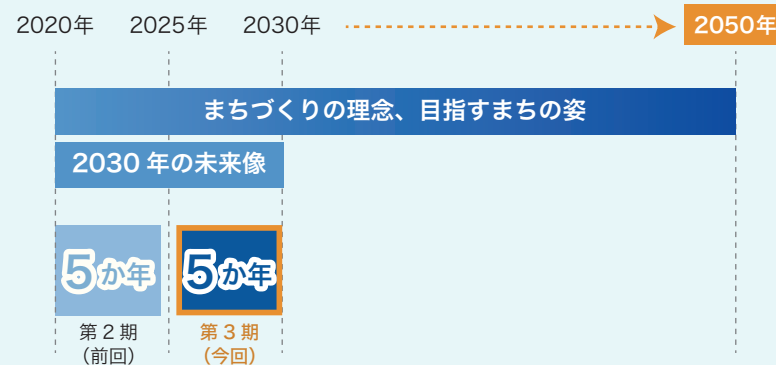
未来構想

「まちづくりの基本的な指針」を示すもので、21世紀半ばまでを見据えた「まちづくりの基本理念」と、「目指すまちの姿（ビジョン）」を定めるとともに、各ビジョンのマイルストーンとして「2030年までの実現を目指す未来像」を明らかとしています。

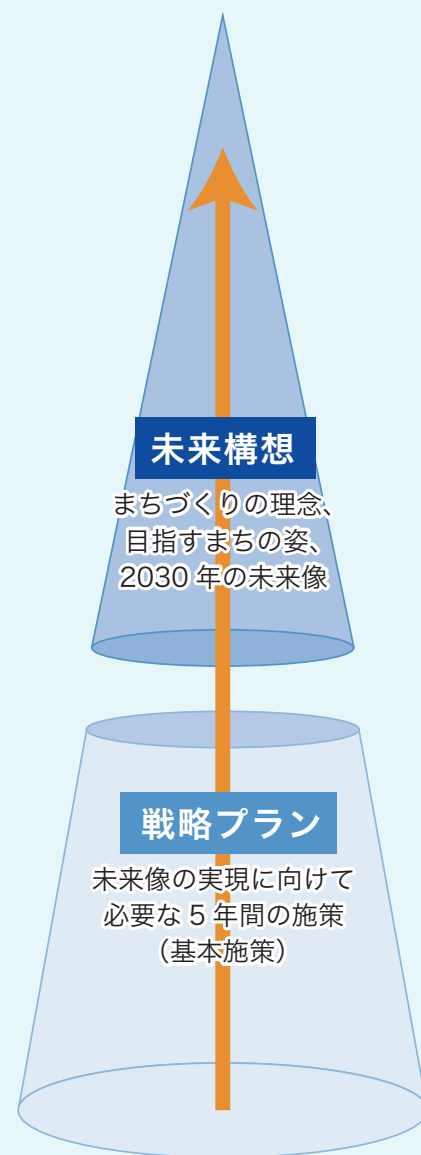
戦略プラン

未来構想の実現に向け、特に重点的に取り組む具体的な施策を定めるものです。

第2期戦略プランの計画期間が2024年度で終了を迎えるに当たり、新たに第3期戦略プランを策定し、今後5年間の市の取組方針となる基本施策を定めています。策定に当たっては、各分野の個別計画との連携を図ることで、計画運用の合理化を進め、社会経済情勢の変化に柔軟に対応できる計画の実現を目指しています。



また、第3期戦略プランは「地方版総合戦略」の役割を兼ねています。「地方版総合戦略」とは、全国的に進む人口減少に伴い発生する社会問題の解決と地方の魅力向上を図る（地方創生）ための計画です。戦略プランと地方版総合戦略を一体的に策定し、戦略的な施策を効果的・効率的に展開することで、未来構想に掲げる未来像の実現に向けた地方創生を推進します。



2030年の私の夢

誰もが、なりたい自分や将来やってみたいことがあると思います。「未来構想」では、皆さんが夢を実現するためには、つくば市としてどのような社会やまちを創っていくべきなのか、そして、持続可能な社会を実現するためには何が 필요한のかを分析し、つくば市が目指す未来を示しています。

「戦略プラン」では、目指す未来の実現に向けて必要な5年間（2025～2029年度）の取組についてまとめました。持続可能なまちをつくるには、一つ一つの選択の積み重ねが重要です。少しでも明るい未来になるよう、市民の皆さんとともに、取組を進めていきます。

3 未来構想

まちづくりの理念



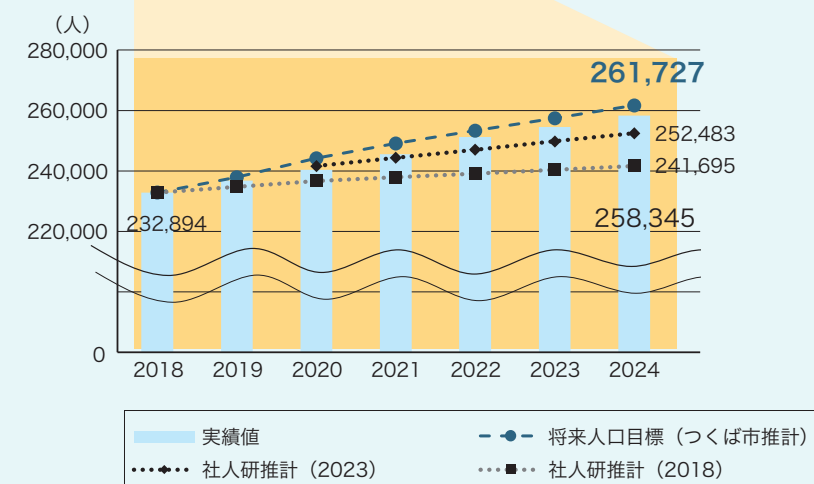
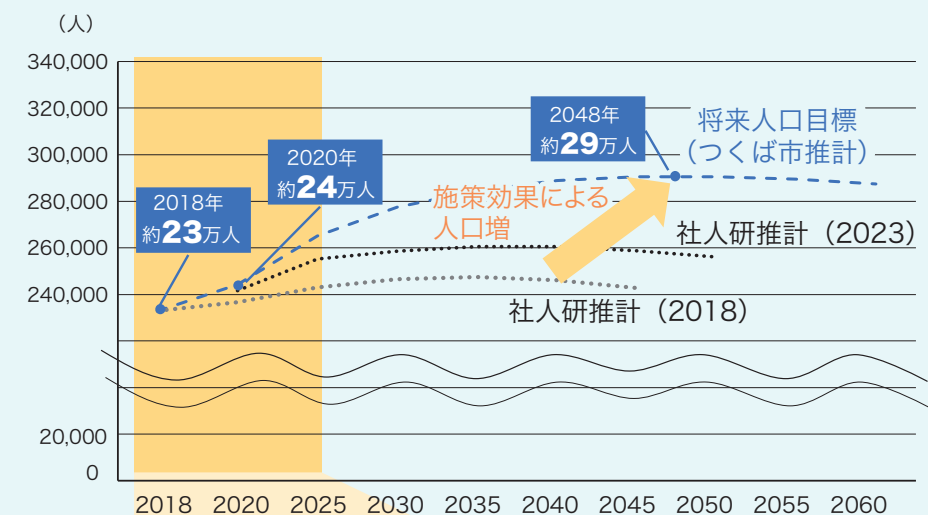
目指すまちの姿

I 魅力をみんなで創るまち	市民が中心となり、多様なコミュニティを超えて顔と顔が見え、人と人がつながり、つくばならではの魅力を高め、世界に示すまち。
II 誰もが自分らしく生きるまち	誰一人取り残されず、一人ひとりの安心が守られ、地域の隅々まで福祉がいきわたり、つくばに集うすべての人が自分らしく生き、自然豊かで幸せがあふれるまち。
III 未来をつくる人が育つまち	自分たちのまちと世界を知り、未来について考え、よりよい未来を次の世代に引き継いでいけるよう、自ら行動する人が育つまち。
IV 市民のために科学技術をいかすまち	市民の日々の生活や地球環境をよりよくするため、科学技術の成果を最大限活用し、課題の解決に貢献するとともに、社会にイノベーションを生み出すまち。

人口の現状と将来の展望

つくば市は、2020年3月につくば市未来構想を策定した際に、市の将来人口目標を定めており、2048年に約29万人のピークを迎えることを目指しています。一方で、国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」）が2023年に実施した推計によると、2018年実施時よりも上方修正されているものの、人口増加が続くのは2040年頃までであり、それ以降は減少に転ずるとしています。

現状、市の人口は社人研による推計値を上回っているものの、市の推計値を下回って推移しています。



I

魅力を
みんなで
創るまち

I-1

市民と共に創る
まちの実現



I-2

資源をみがく
新たな魅力の創造



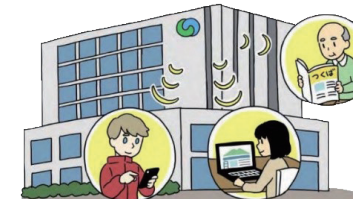
I-3

つくばならではの
街並みや体験の創出



I-4

世界中から人を
惹きつける魅力の発信



II

誰もが自分らしく
生きるまち

II-1

地域が支え合う医療、
介護、福祉の実現



II-2

生涯いきいきと暮らせる
人生 100 年時代の実現



II-3

日頃から地域で連携した
防災・防犯体制の構築



II-4

公共施設やインフラの
長期的な活用・維持



II-5

ライフスタイルに合わせた
多様な移動手段の構築



II-6

身近な自然を守り、
楽しみ、持続させる



III

未来をつくる
人が育つまち

III-1

子どもも親も
楽しく育つ環境の充実



III-2

じぶんの「好き」を見つけ
個性を伸ばす環境の充実



III-3

多様性をいかした誰もが
活躍できる社会の実現



IV

市民のために
科学技術を
いかすまち

IV-1

未来を切り拓く
社会イノベーションの創出



IV-2

地元で頑張る組織や
人の持続的な成長



IV-3

新たな技術や価値の導入
によるまちの進化



IV-4

地球に優しく「ごみ」の
ない循環型社会の実現



4 第3期戦略プラン

つくばが「つながる」ための視点

「つながりを力に未来をつくる」ために各種施策等を策定する上での共通する視点

① 地域やコミュニティがつながる

既存の公共施設のみならず、官民の境目を問わず気軽に多くの方が交流できるたまり場のような拠点を増やしていくことを目指します。

② 知識や経験がつながる

ビジネスや研究等の様々な知識や経験を持った人達が気軽に集える場所や機会を設けることで、新たな挑戦やイノベーションを生み出すとともに、さらに人を呼び込む好循環につながることを目指します。

③ 社会の資源がつながる

行政や企業が持つ既存の施設や空間、時間等の資源をいかし、新たなものを単独で建てる・購入するだけでなく、必要なものを市・市民全体でシェアすることを目指します。

④ 市内外の応援する気持ちがつながる

市内外のつくばを応援する人たちの気持ちが事業につながる仕組みづくりを目指します。

⑤ 中心地区と周辺地区が好循環でつながる

中心地区・周辺地区間の双方向のヒト・モノ・コト・カネの流れをつくり、好循環でつながることを目指します。

⑥ 持続可能な選択につながる

持続可能都市をつくるのは、市民一人ひとりの選択の積み重ねであることを認識し、日々の選択が持続可能性を認識したものとなる施策を目指します。

I 魅力をみんなで創るまち

市民が中心となり、多様なコミュニティを超えて顔と顔が見え、人と人がつながり、つくばならではの魅力を高め、世界に示すまち。

I-1 市民と共に創るまちづくりを推進する

市民協働 # 区会 # 市民参加

今後5年間の取組

2030年の未来像

まちへの愛着や誇りを持ち、意見を交わしながら自ら行動することで、市民が中心となったまちづくりが進むとともに、あらゆる分野のチャレンジを応援することで、チャレンジの連鎖が生まれています。

- 地域活動と市民チャレンジへの支援
- 新規区会設立促進と活動支援
- 市政への市民参加の推進

I-2 資源をみがき、いかし、魅力あふれるまちをつくる

農業 # 観光 # 文化財

今後5年間の取組

2030年の未来像

アイデアや意欲のある人材が集まり、つくばの資産と新たなセンスが融合することで新しい魅力が創り出されています。

- 豊かな農資源を輝かせることによる魅力の創出
- 豊かな資源をいかした観光の振興
- 文化財の保存と活用

I-3 つくばならではの街並みや体験を創出する

筑波研究学園都市 # 中心市街地(つくば駅周辺)
周辺市街地(R8)

今後5年間の取組

2030年の未来像

公園の中に街があるような緑豊かなゆとりある街並みや、つくばでしか体験できないコトが街中に散りばめられています。

- つくば駅周辺の魅力向上とにぎわい創出
- 地域資源をいかした持続的な周辺市街地の振興

I-4 シティプロモーションを推進する

広報

今後5年間の取組

2030年の未来像

つくばの魅力を発信し、世界中から人を惹きつける魅力的なまちになっています。

- 市内外へ向けた戦略的な広報の推進

Ⅱ 誰もが自分らしく生きるまち

誰一人取り残されず、一人ひとりの安心が守られ、地域の隅々まで福祉がいきわたり、つくばに集うすべての人が自分らしく生き、自然豊かで幸せあふれるまち。

Ⅱ-1 地域が支え合い、医療、介護、福祉が充実したまちをつくる

#地域福祉 #高齢者福祉 #障害者福祉

今後5年間の取組

2030年の未来像

様々なコミュニティによる支え合いの中で、充実した医療や介護、必要な目配りや支援が地域に行き届いています。

- 相互に支え合う地域共生のまちづくり
- 誰もが適切にサービスを利用できる支援体制の強化
- 誰もが安心して暮らすことができる包括的支援の充実

Ⅱ-2 人生100年時代に生涯いきいきと暮らせるまちをつくる

#健康 #生涯学習 #スポーツ #文化芸術

今後5年間の取組

2030年の未来像

一人ひとりが健康を大切にし、社会に参画し、生涯いきいきと生活しています。

- 健康づくりの支援
- 生涯学習による市民生活の充実
- スポーツで“つながる”まちづくりの実現
- 文化芸術による市民生活の充実

Ⅱ-3 地域や市民一人ひとりの防災・防犯への備えを後押しする

#防災 #防犯 #空家対策

今後5年間の取組

2030年の未来像

日頃から地域で連携しながら防災・防犯の取組や教育を行っています。

- 災害に備えた市による公助機能の強化
- 市民による自助・地域における共助の推進
- 防犯意識を高め、安全・安心を実感できる生活環境づくり
- 安全・安心な地域づくりのための空家対策

Ⅱ-4 公共施設やインフラのマネジメントを推進する

#公共施設 #インフラ

今後5年間の取組

2030年の未来像

公共施設やインフラを長期的視野で維持管理することにより、誰もが安全・安心な生活を送っています。

- 公共施設・インフラの予防保全型維持管理の強化
- 安全・安心と充実した機能を確保するための施設整備
- 安定的な財源確保と民間の創意工夫等の活用

Ⅱ-5 多様な移動手段があるまちをつくる

#公共交通 #自転車

今後5年間の取組

2030年の未来像

個人と公共の枠を超え、自分のライフスタイルに合わせて組み合わせられる交通システムにより、誰もが自由にストレス無く移動しています。

- 利便性の高い公共交通ネットワークの形成と様々な移動サービスの提供の推進
- 自転車を楽しめるまちづくりの推進

Ⅱ-6 身近な自然を守り、楽しみ、持続させる

#生物多様性 #森林保全 #環境保全

今後5年間の取組

2030年の未来像

筑波山や牛久沼などの美しい景観や豊かで多様な生態系により、多くの人々が自然の恩恵を実感しながら自然を守り育てる意識を持って生活しています。

- 生物多様性の重要性や価値の理解促進
- 多面的機能を発揮する森林の維持・保全
- 安心で快適な生活環境の保全

Ⅲ 未来をつくる人が育つまち

自分たちのまちと世界を知り、未来について考え、よりよい未来を次の世代に引き継いでいけるよう、自ら行動する人が育つまち。

Ⅲ-1 子どもも親も楽しく育つ環境をつくる

妊娠・出産・子育て # 幼児教育・保育
放課後の居場所 # たまり場

今後5年間の取組

- 安心して生み育てられる子育て環境の充実
- 幼児教育・保育の環境の充実
- 放課後等における子どもの活動環境の充実
- 子どもも大人も楽しめるたまり場の充実

2030年の未来像

充実した子育て環境とともに、創意工夫を引き出す遊びの機会が街中にあふれ、親子が一緒に楽しみながら成長しています。

Ⅲ-2 個性を伸ばし未来を切り拓く力を育む

学校教育

今後5年間の取組

- 一人ひとりの「学び」を大切にする教育の推進
- 「学び」の多様性に対応し個性が花開く教育の推進
- 地域に支えられ、共に学び育ち合う教育の推進

2030年の未来像

子どもたちは、自分の好きなことを見つけ、個性を伸ばしながら、未来を切り拓いていく力を育んでいます。

Ⅲ-3 多様性が尊重された、包摂的な社会をつくる

多文化（国籍） # 性別 # 障害

今後5年間の取組

- 多文化共生の推進
- 性別にかかわらず自分らしく生きられる環境づくり
- 障害者が安心して暮らし、活躍できる環境づくり

2030年の未来像

性別、国籍、年齢等を問わず、自身や他者の選択を尊重し合い多様性をいかす文化が地域に根付いています。

Ⅳ 市民のために科学技術をいかすまち

市民の日々の生活や地球環境をよりよくするため、科学技術の成果を最大限活用し、課題の解決に貢献するとともに、社会にイノベーションを生み出すまち。

Ⅳ-1 新たな共創の仕組みづくり

新産業育成 # イノベーション
スタートアップ

今後5年間の取組

- イノベーションの創出を加速する仕組みづくり
- スタートアップを支援する仕組みづくり

2030年の未来像

多様な才能が世界中から集まり、社会との対話を通じて、新しい未来を切り拓くイノベーションを創出しています。

Ⅳ-2 地元で頑張る組織や人が成長し続けるまちをつくる

オフィス・産業用地
若者定着・雇用促進 # 新規創業

今後5年間の取組

- 成長産業・新産業の立地促進
- 地域産業人材の確保・定着の推進
- 新たなチャレンジへのサポート

2030年の未来像

研究成果をいかした新産業の創出や地域企業等における科学技術の活用が進むとともに、社会や環境と調和しながら持続的に経済成長するモデルが浸透しています。

Ⅳ-3 市民のために新たな技術や価値を導入し、進化するまちをつくる

スーパーシティ # データ利活用
行政のデジタル化 # デジタルによる業務改革

今後5年間の取組

- スーパーシティの推進
- データで市民と豊かになるまちの推進
- デジタルを基本とした行政サービス
- デジタルを活用したワークライフバランスの向上

2030年の未来像

新たな技術や価値を街中に取り入れ、社会や地域の課題を解決し、科学技術で街全体が進化しながら誰もが豊かな生活を送っています。

Ⅳ-4 地球に優しく「ごみ」のない低炭素で循環型のまちをつくる

ごみの減量 # 3Rの推進 # 脱炭素

今後5年間の取組

- ごみの減量化・再資源化
- 地域の脱炭素化

2030年の未来像

市民一人ひとりが地球環境に優しい選択を積み重ね、最適な生産や消費、再資源化、再利用を進めることで、「ごみ」という言葉がなくなっています。